

1 教科について

国語

昨年度の課題

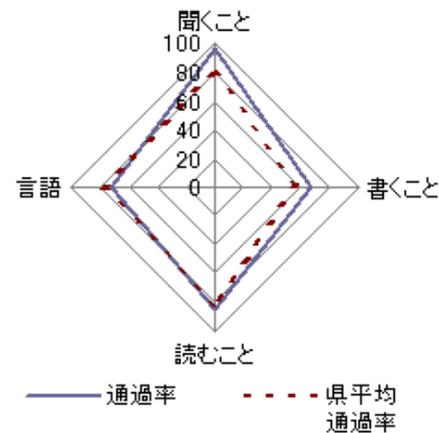
- ①第3学年の漢字を書く。(58.3%)
- ②ローマ字を書く。(58.3%)
- ③場面の移り変わりや情景を想像する。(58.3%)

昨年度の課題を受けて
具体的に取組んだ事項

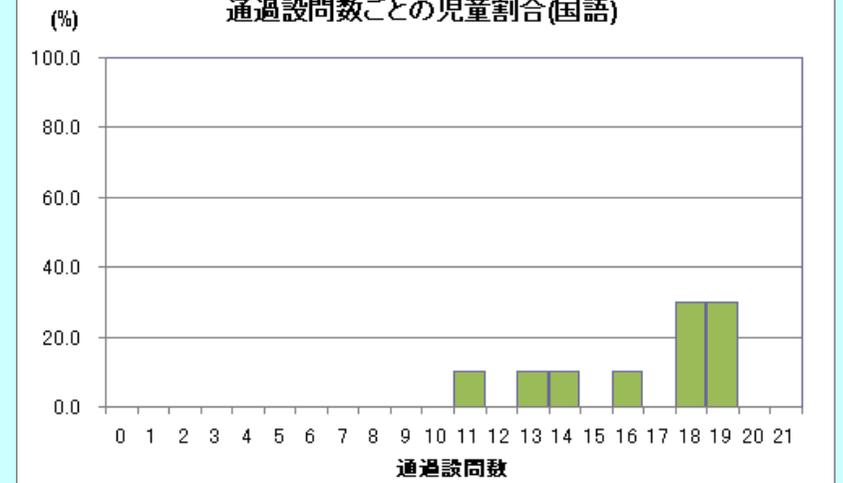
- ①漢字の読み書きを定着させる指導
 - ・学びタイム, 家庭学習での反復練習→短期目標 (いつまでに, この範囲を, ○点以上とれるように) を持たせた漢字テストの実施→間違い直しの徹底・再テスト等により定着を図る。
- ②ローマ字の読み書き指導
 - ・ローマ字のプリント学習, ローマ字日記など日常的な反復練習
- ③叙述に即した読み取り指導と言語活動の充実
 - ・物語文の読み取りの学習において, つけたい力を明確にした言語活動 (単元全体を通して, 授業の中で) の充実を図り, 児童の「伝え合う力」を始めとした「確かなことばの力」を育てる。
 - ・場面の様子や人物の心情などを叙述に即して読み, 叙述を根拠にして, 理由付けをしながら考えを伝え合う学習を進める。

「基礎・基本」定着状況調査通過率 学校平均 **78.6%** 県平均 **75.8%**

領域別平均通過率(国語)



通過設問数ごとの児童割合(国語)



重点課題 ◎: 「基礎・基本」定着状況調査
◇: 全国学力・学習状況調査

- ◎・・・学年別漢字配当表に示す第4学年の漢字を読み, 第4学年の漢字を書くことができる。(40.0%)
- ◎・・・はがきの表書きに必要な事柄の順序を考えて正しく書くことができる。(50.0%)
- ◎・・・文の中における主語・述語との関係に注意することができる。(60.0%)

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

- ①漢字の読み書きを定着させる指導
 - ・同じ漢字を使った色々な語句に触れる機会をつくる。
 - ・学期の新出漢字を学期初めに学習し, くり返し練習をしっかりとさせ習得させる。
 - ※くり返し練習のさせ方の工夫
苦手な児童には, 1回に覚えてくる問題数を少なくし, 繰り返すことにより習得させる。例: 「何問覚えてくる?」→「○問」(自分の言葉に責任をもたせ, できたら褒めて, 意欲を喚起する。)
- ②はがき・手紙を書く場を設定する。一過性のもので終わらせないように, 生活の中で活用させていく。(総合的な学習の時間や体験学習の際に, ゲストティーチャーにお礼の手紙を書いて郵送するなどの活動を設定する。)
- ③2年生で学んだ主語・述語を日常的に書く・話す場において正しく使っていきことができるように継続的に指導する。主語を省いて発表した時, 必ず主語を入れるよう指導する。

来年度の目標値

- 通過率80%以上の児童を60%にする。
- 通過率60%未満の児童を0%にする。

指導方法等の改善計画について

算 数

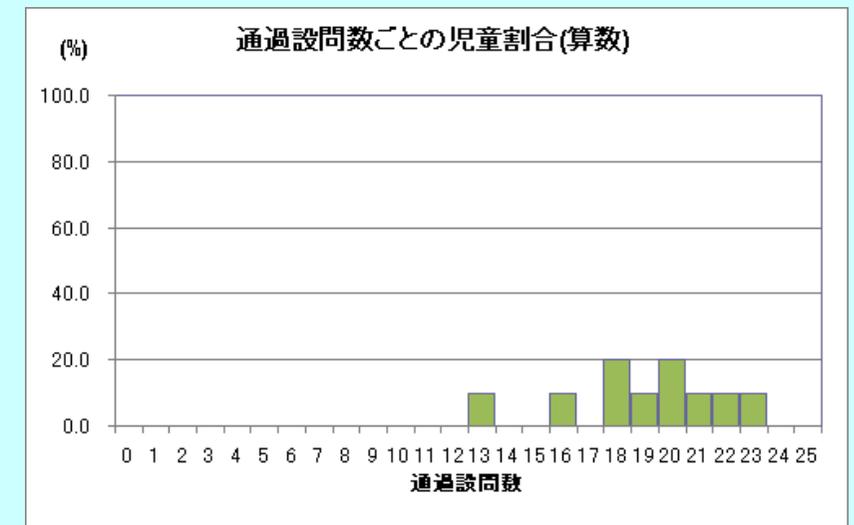
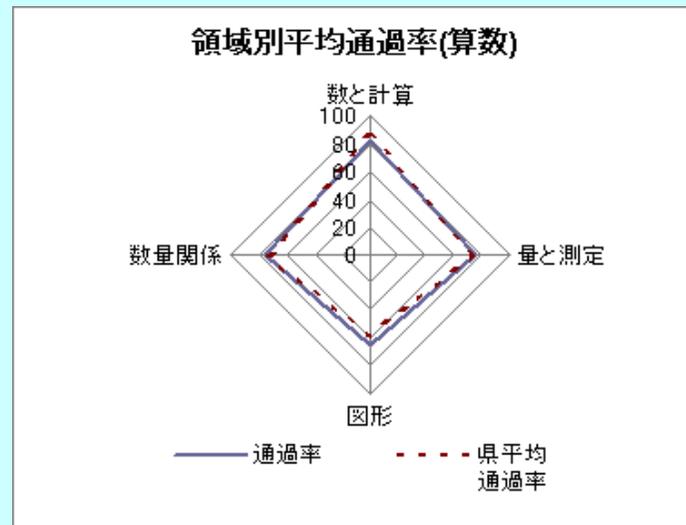
昨年度の課題

- ①「数と計算」
 - ・分数の意味と表し方 (50.0%)
 - ・数の相対的な大きさの理解 (50.0%)
- ②「量と測定」
 - ・およその重さ (41.7%)
 - ・角の測定 (41.7%)

昨年度の課題を受けて 具体的に取組んだ事項

- ①算数的活動と言語活動を位置づけた指導
 - ・具体物や操作活動を取り入れ、問題解決の筋道をイメージ化させる。その解き方・考え方を書いたり説明し合ったりすることにより、思考力・表現力を鍛えると共に指導内容の定着を図る。
- ②学びタイムや家庭学習での反復練習と確認のための小テスト
 - ・単元末テスト等で定着度を確認しながら取り組む。また、個別指導により学力補充を行い、学力向上を図る。

「基礎・基本」定着状況調査通過率 学校平均 76.0% 県平均 75.0%



重点課題 ◎ : 「基礎・基本」定着状況調査 ◇ : 全国学力・学習状況調査

- ◎・・・任意単位による面積の比較をすることができる。(60.0%)
- ◎・・・単位分数の幾つ分という表し方を理解する。(70.0%)
- ◎・・・除数と余りの関係を考える。(70.0%)
- ◎・・・およそ1kgの重さのものを理解する。(70.0%)

重点課題に対応した改善する指導内容及び方法

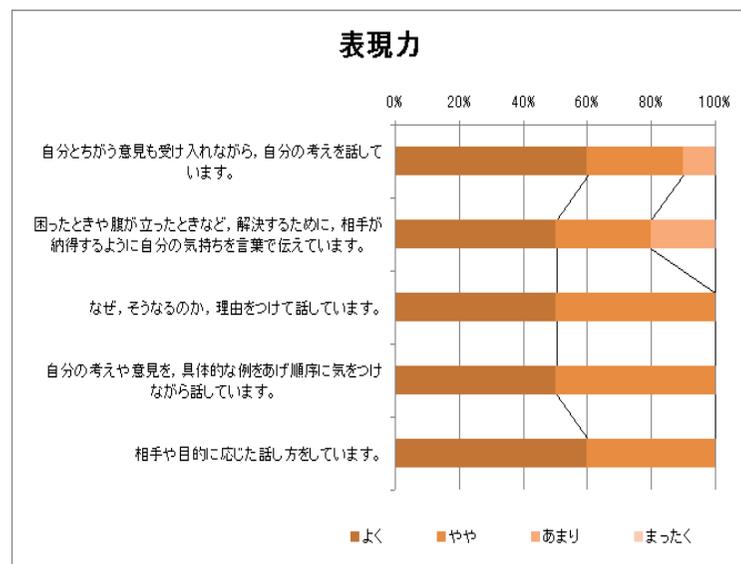
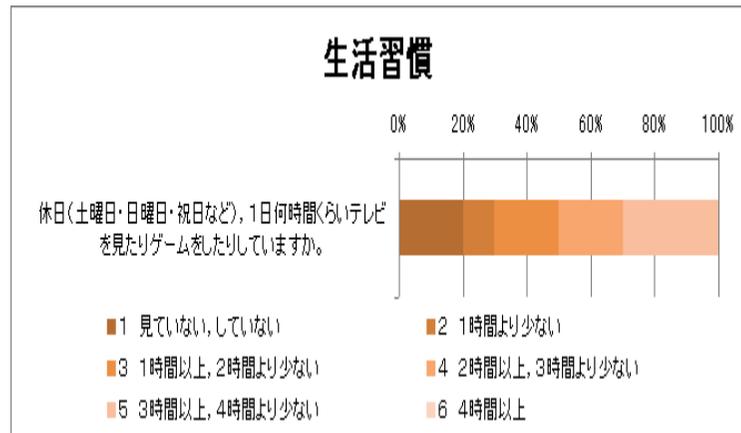
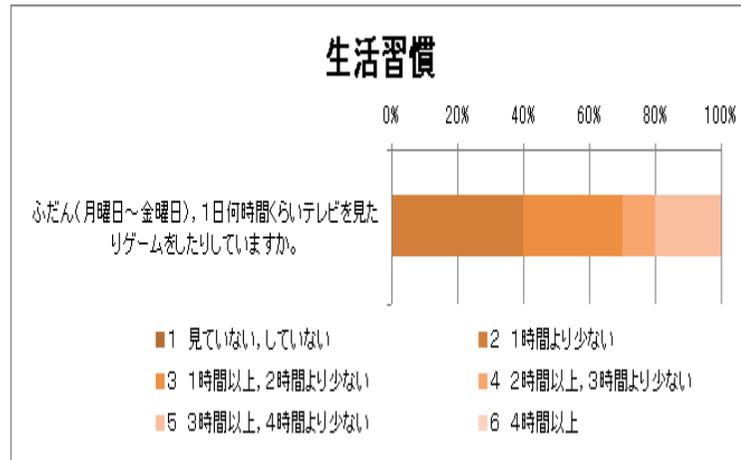
- ①算数的活動 低学年で、色板を動かす算数的活動を数多く行う。活動後は、言語化して説明をさせる。
- ②言語活動 分数や図を見て「1を○つに分けた□つ分」と説明できるようにする。1より大きいものを示した図を分数で表す問題を繰り返し行う。
- ③問題解決 発達段階に応じて、既習の問題解決の方法を提示し、様々な方法で解く習慣をつける。(も・ず・こ・け・し)
- ④量感の育成 単位について学習した学年で、量感を持たせる活動を充実させる。色々な学年が目に見えるよう、校内に量感を持たせるための掲示する。

来年度の目標値

- 通過率80%以上の児童を60%にする。
- 通過率60%未満の児童を0%にする。

2 質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：学校質問紙調査，児童質問紙調査）（全国学力・学習状況調査：学校質問紙，児童質問紙）

(1) 生活・学習

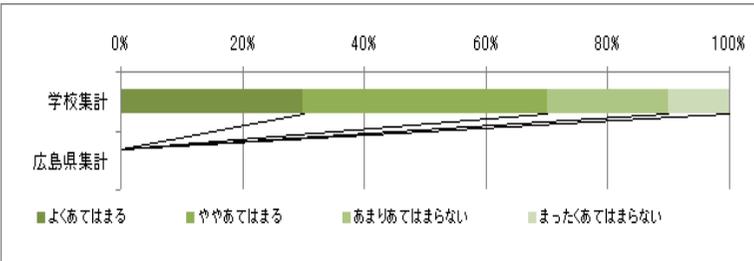


改善したい点 (◎「基礎・基本」, ◇「全国」)	今後の具体的な取組の内容
◎テレビ・ゲームの時間 平日 2 時間以上 3 時間未満 (10.0%) 3 時間以上 4 時間未満 (20.0%) 休日 2 時間以上 3 時間未満 (20.0%) 3 時間以上 4 時間未満 (30.0%) ◎困ったときや腹が立ったときなど，解決するために，相手が納得するように自分の気持ちを言葉で伝えることができていない。(20%)，なぜそうなるのか理由をつけて話すことができていない。(0%) ⇒数値から読み取れる児童の意識と日常生活における児童の言動の実態に差がある。(相手を傷つけたり嫌な気持ちにさせたりする言葉をぶつける，言葉足らずである等により，トラブルが頻繁に起こるのが現状である。児童は，相手を傷付けたり嫌な気持ちにさせる言葉や言葉足らずの伝え方でも，自分の気持ちや理由を言葉で伝えることになっていると考えていると考えられる。)	○家庭との連携を図り，テレビ・ゲームの時間を少なくし，学習時間を増やしていくように取り組んでいく。 ・テレビ・ゲームの時間 (平日 2 時間未満) ・家庭学習の時間 (学年×10 分) 以上 ・自主学習 (予習・復習) の仕方の指導 ・ゲーム以外の遊びや運動の紹介 ○特別支援教育の視点に立ち，コミュニケーション能力を育む指導を行う。 ・文句や暴言では，相手が納得し，解決するような話にはならないことを伝え，どのように言えばよいか考えさせ，解決するための言葉や話し方を教える。(自分の気持ちをうまく伝えられない児童が相手の気持ちを理解できるように，絵図で示しながら順序立てた説明を行う。)

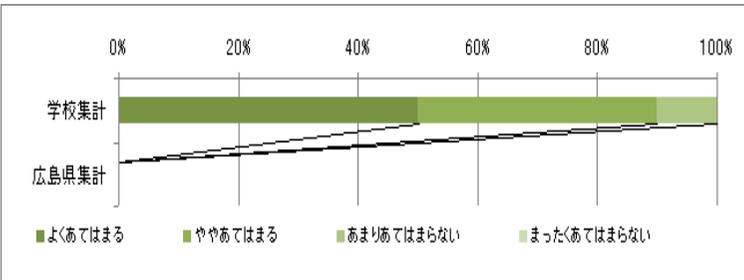
来年度の目標値	・生活リズムの習慣化を図る。(テレビ・ゲームの時間…平日 2 時間未満 90%) ・困ったときや腹が立ったときなど，解決するために，相手が納得するように自分の気持ちを言葉で伝えたり，なぜそうなるのか理由をつけて話したりすることができる。(70%以上)
---------	--

(2) 教科

国語の授業では、くり返し出てくる中心となる言葉や文を見つけながら、文章を読んでいます。



算数の授業では、自分の力に合った内容や方法、学習の進みぐあいなどを選んで学習する方がよく分かります。



	児童の回答と学校の指導についての課題 (◎「基礎・基本」、◇「全国」)	授業改善の方向性や具体的な取組
国語	<p>〔児童の回答〕</p> <p>◎国語の授業では、くり返し出てくる中心となる言葉や文を見つけながら、文章を読んでいます。 (肯定的回答率 昨年度 58.3%, 今年度 70.0%)</p> <p>〔学校の指導〕</p> <p>◎説明的な文章の学習において、繰り返し出てくる言葉に着目させるなど、中心となる言葉や文を見つけさせる方法の指導を行った。(よくあてはまる)</p> <p>〔課題〕</p> <p>◎国語の授業では、繰り返し出てくる言葉は文章の中でのキーワードであることや、その言葉を見つけて印をつけるように指導を行った。「基礎・基本」定着状況調査では、「段落相互の関係をとらえて読むこと」の平均通過率は65.0%であった。今後も引き続き取組を続けていく必要がある。</p>	<p>○しかけのある学習課題設定を行う。授業においては、読まされて読む説明的な文章ではなく、単元のゴールを示し、読まなければならない必然性を持たせ、児童が進んで読むことができる工夫を全学年で行っていく。その中で、中心になる言葉や文の見つけ方等の読むための技能を身につけさせるようにする。</p>
算数	<p>〔児童の回答〕</p> <p>◎算数の授業はよく分かります。 (肯定的回答率 昨年度 83.3%, 今年度 90.0%)</p> <p>◎算数の授業では、自分の力に合った内容や方法、学習の進みぐあいなどを選んで学習する方がよく分かります。 (肯定的回答率 昨年度 58.3%, 今年度 90.0%)</p> <p>〔学校の指導〕</p> <p>◎一斉指導 (20%) ティームティーチング (60%) 習熟の程度に応じた指導 (20%)</p> <p>〔課題〕</p> <p>◎昨年度は、学級担任と非常勤講師の2人体制で授業を行うことができた。児童の習熟の程度や単元によって指導方法を工夫することができた。児童の回答の結果からも、ティームティーチングや習熟の程度に応じた学習で算数がよく分かったということが分かる。しかし、算数の正答率は76.0%であり、さらに理解度を上げていく必要がある。</p>	<p>○本年度は、どの学年も非常勤講師と指導をする体制にはなっていない。その中で、担任一人でも、個の実態に合った内容や方法で指導ができるよう工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ヒントカードの工夫 ・習熟度別プリントによる指導 ・単元末や学期末、学年末での習熟度別学習 等

来年度の目標値	<ul style="list-style-type: none"> ・「国語の授業では、くり返し出てくる中心となる言葉や文を見つけながら、文章を読んでいます。」の肯定的回答率を80%以上にする。 ・「算数の授業はよく分かります。」の肯定的回答率を80%以上にする。 ・「算数の授業では、自分の力に合った内容や方法、学習の進みぐあいなどを選んで学習する方がよく分かります。」の肯定的回答率を80%以上にする。
---------	---

指導改善のための実施スケジュール

